

命の意味づけ尺度の開発

イケダ ユキタカ オチアイ リョウタ ヒシヤ スミコ タカギ ユウコ
池田 幸恭*1 落合 亮太*2 菱谷 純子*3 高木 有子*4

目的 命や生命の問題を考える上では、個人がどのように命を意味づけているかが重要になると考え、命の意味づけ尺度を作成し、その信頼性と妥当性を確かめることを目的とした。

方法 生命および命に関連する先行研究と医療系大学生より収集した命の意味づけに関する自由記述に基づいて項目を作成した。作成した命の意味づけ尺度68項目について質問紙調査を医療系大学生に実施した。質問紙調査への協力者484名のうち、回答不備などを除いた434名の回答を分析した（有効回答率89.7%）。因子分析によって命の意味づけ尺度の下位尺度を構成し、 α 係数および再検査法による安定性から信頼性を検討した。さらに、命の意味づけ尺度について、死生観尺度との相関や、生死に関する経験による得点差から妥当性を検討した。

結果 命の意味づけ尺度は、因子分析の結果に基づき、「命としてあることの実感」「自分の命を人のために役立てたいという使命感」「世代を超えた命のつながり感」「命の相互のつながり感」「自他の命の証を遺したいという願い」「限りある命の実感」という6下位尺度から構成された。各下位尺度の α 係数は0.63～0.87、再検査時の相関係数は0.35～0.56であり、「限りある命の実感」以外の5下位尺度に死生観尺度における『人生における目的意識』と0.18～0.35の相関係数が得られた。命の意味づけ尺度について、内的整合性と安定性、死生観および生死に関する経験との関連から、一定水準の信頼性と妥当性が確かめられた。

結論 命の意味づけ尺度は6下位尺度から構成され、一定水準の信頼性と妥当性が確かめられた。開発された命の意味づけ尺度を命の教育での授業評価あるいは看護や医療における臨床現場に活用できると考えられた。

キーワード 命の意味づけ、生命、死生観、尺度

I 緒 言

人は生命の危機に直面したとき、病に倒れたとき、身近な他者の死を体験したとき、自然の中に抱かれたとき、生命の誕生に出会ったときなど、様々な場面で自分の命を実感することがある。命の実感に関連する死生観の研究は、主に緩和ケア医療の分野で行われており、死生観を定量的に評価しようとする研究もある^{1)~3)}。

このような研究では、死に対する認識や態度の評価に重点を置いているという特徴がある。これに対して、死生観における生の側面に重点を置いた研究や生命観について扱った研究はほとんどみられない。命や生命の問題を考える上では、個人がどのように命を意味づけているかが重要になるであろう。そこで本研究では、命そのものをどのように実感し、意味づけているかを定量的に評価するための指標である「命の意

*1 和洋女子大学人間・社会学系心理学・教育学研究室助教 *2 東京女子医科大学看護学部成人看護学講師

*3 群馬県立県民健康科学大学看護学部講師 *4 常総市教育委員会適応指導教室スクールカウンセラー

味づけ尺度」を開発する。命の意味づけ尺度を開発することは、生命観の側面を明らかにすることにつながり、さらには命の教育の授業評価への活用や、看護や医療における臨床現場にとっても有意義であると考えられる。

本研究における「命」は、辞書的語彙を参考に、「生物の生きていく原動力あるいは生命力」と定義する。そして、「命の意味づけ」を「生物の生きていく原動力あるいは生命力である命を感得することであり、命に意味を付与すること」ととらえて研究を進める。

生命および命に関連する論究^{4)~6)}から、「命の意味づけ」には以下の2つの次元がかかわっていると考える。第1に、「命の感得」に対応する「自分が命として存在することに気づいているか、自分の命が他の命とのつながりを持っていることに気づいているか」という「個別性・関係性の次元」である。第2に、「命への意味の付与」に対応する「命の意味を超越的なものであり与えられたものととらえるか、自分の意思で命を積極的に生かすものとしてとらえているか」という「超越性・内在性の次元」である。これら2次元の組み合わせから、「命の意味づけ」には少なくとも4つの領域があると想定する。すなわち、①自分が命を与えられた存在であることに気づくこと（個別性・超越性）、②自分の命と他のすべての命がつながっていることに気づくこと（関係性・超越性）、③命として存在している自分を積極的に生かそうとすること（個別性・内在性）、そして④命として生かされている存在として世界にかかわり、世界を変えていくように働きかけること（関係性・内在性）という4領域である。この2次元4領域に基づいて、命の意味づけ尺度を作成することにする。

本研究の目的は、命の意味づけ尺度を作成し、その信頼性と妥当性を確かめることである。生命への関心が高く、命の意味づけについて意識化しやすいと考えられる医療系大学生に調査を実施する。具体的には、下記の3つの分析に沿って研究を進める。第1に、作成した命の意味づけ尺度の項目選定を行い、因子分析によ

て下位尺度を構成する。第2に、命の意味づけ尺度の信頼性を、内的整合性および安定性の観点から検討する。第3に、命の意味づけ尺度の妥当性を検討する。

尺度の妥当性の検討には、『死生観尺度』³⁾を用いる。『死生観尺度』は、『死後の世界観』『死への恐怖・不安』『解放としての死』『死からの回避』『人生における目的意識』『死への関心』『寿命観』という7下位尺度から構成されており、その信頼性と妥当性は確かめられている。『死生観尺度』の下位尺度である『人生における目的意識』は、死生観における生の側面を測定しているため、命の意味づけ尺度と全体的に関連がみられると予想される。その他の6つの下位尺度は、死生観における死の側面を測定しているため、命の意味づけ尺度との弁別性があり関連はみられないと考えられる。さらに、生命にかかわるテーマである『死の意味づけ』については、生死に関する経験の有無との関連が報告されている⁷⁾。そこで、生死に関する経験として「身近な人との死別体験」と「生死に関わる病気やけがの経験」を取りあげ、命の意味づけ尺度の妥当性を検討することにする。「身近な人との死別体験」と「生死に関わる病気やけがの経験」は自らの命を意識する機会となり、それらの経験がある回答者の方が、命の意味をより実感していると予想する。

Ⅱ 方 法

(1) 命の意味づけ尺度の項目の収集と選定

生命および命に関連する論究^{4)~6)}から、命の意味づけに関連する記述を取りあげた。さらに、医療系大学の大学1年生147名に、2005年4月に予備調査を実施し、自分の命をどう感じるか、どう生かしたいと考えるのかについて、自由記述で回答を求めた。収集した記述を、先述した2次元4領域をもとに分類し、①個別性・超越性24項目、②関係性・超越性17項目、③個別性・内在性12項目、④関係性・内在性15項目の計68項目を作成した。

(2) 調査時期および倫理的配慮

2006年4月から2008年7月に、茨城県内の医療系大学生に質問紙調査を実施した。調査は、大学での講義時間を利用して質問紙を一斉に配布しその場で回収した。回答はマークシート形式で求めた。

調査にあたっては、調査への協力は任意であり、協力しないことで不利益を被ることはないこと、そして質問紙への回答をもって調査協力への同意が確認されることを質問紙に記載すると共に口頭でも説明した。

(3) 調査回答者

質問紙調査への協力者484名のうち、回答に欠損値などの不備がみられた45名、および子どもがいますかという設問に「いる」あるいは回答不備がみられた5名の計50名を除いた434名の回答を分析した（有効回答率89.7%）。男性163名、女性271名の内、10代が419名（男性155名、女性264名）、20代が15名（男性8名、女性7名）であり、30～50代の回答者はいなかった。

(4) 調査内容

性別、年代、子どもの有無に加え、次の内容を調査した。

1) 命の意味づけ尺度 (68項目)

命（いのち）の感じ方に関する次の項目に対して、「いつも感じている：5」「時々感じている：4」「たまに感じる：3」「あまり感じない：2」「まったく感じない：1」の中から、もっとも当てはまるところを選んで、数字を○で囲んでくださいと教示し、5件法で回答を求めた。

2) 死生観尺度³⁾ (27項目)

2007年から2008年に実施した質問紙調査でのみ尋ねた。死生観に関する次の項目に対して、もっとも当てはまるところを選んで、数字を○で囲んでくださいと教示し、「当てはまらない：1」から「当てはまる：7」の7件法で回答を求めた。

3) 生死に関する経験

身近な人（家族・親しい友人）との死別体験

がありますか、生死に関わるような病気（けがも含む）の経験がありますかという設問に、それぞれ「ある」「なし」で回答を求めた。

Ⅲ 結 果

(1) 命の意味づけ尺度の因子分析による検討

因子分析に先立って、天井効果やフロア効果のみられる項目があるかどうかを確認し、該当した8項目を分析から除外した。残りの60項目で最尤法による因子分析（Promax回転）を行った。固有値の推移と因子の解釈可能性により、6因子解を採択した（表1）。回転前の6因子で説明された分散の総和の割合は45.3%であった。各因子は、下記のように解釈された。

第1因子に0.40以上の負荷量を示した項目の多くは「個別性・超越性」として作成された項目であり、自分が今ここに生きており、命としてあることを実感していることを示していると考えられた。そのため、第1因子は、「命としてあることの実感」と解釈された。第2因子に0.40以上の負荷量を示した項目はすべて「関係性・内在性」として作成された項目であり、自分の命を他者のために役立てたいという意思や欲求を表している内容であると考えられる。そこで、第2因子は、「自分の命を人のために役立てたいという使命感」と解釈された。第3因子に高い負荷量を示した項目のほとんどは「関係性・超越性」として作成された項目であり、自分の命が前の世代から後の世代へとつながっていくという感覚を表している項目であると考えられた。そこで、第3因子は「世代を超えた命のつながり感」と解釈された。第4因子に0.40以上の負荷量を示した項目はすべて「関係性・超越性」として作成された項目であり、自分以外の命とのつながりを実感する内容を表していると考えられた。そこで、第4因子は「命の相互のつながり感」と解釈された。第5因子に高い負荷量を示した項目の多くは「関係性・内在性」として作成された項目であり、自分や亡くなった人の命の意味や証を遺したいという意思や欲求を示していると考えられた。そこで、

表1 命の意味づけ尺度60項目の因子分析結果(最尤法, プロマックス回転)

	f1	f2	f3	f4	f5	f6	h^2	平均値(SD)
f1 命としてあることの実感								
It01 命があるから私は今ここにいるのだと思う	0.77	0.02	-0.03	-0.03	-0.11	-0.01	0.49	3.48 (1.07)
It06 自分を命あるものとして感じる	0.65	0.03	-0.04	-0.05	-0.03	0.16	0.47	3.75 (1.00)
It05 自分の命はこの世に生を授けられたのだと思う	0.61	-0.06	0.09	-0.04	0.01	0.10	0.42	3.23 (1.07)
It20 自分は生きていると心から感じる	0.57	0.05	0.08	0.02	0.10	-0.04	0.48	3.39 (0.98)
It09 限りある命として今ここに生きていると思う	0.56	0.07	-0.06	-0.06	-0.05	0.29	0.45	3.75 (1.00)
It40 この世に命として生を受けたと感じる	0.55	-0.14	0.06	0.05	0.25	0.02	0.50	2.94 (1.01)
It14 生命の輝きを実感する瞬間がある	0.54	-0.03	0.05	0.11	-0.01	-0.07	0.33	3.06 (0.95)
It13 自分は命あるものとして生かされてここにいると思う	0.52	-0.03	0.09	0.07	-0.20	0.20	0.35	3.00 (1.10)
It19 自分の身体のみずみずまで命が宿っている	0.50	-0.01	0.06	0.14	0.01	0.10	0.42	2.89 (1.12)
It33 今自分が生きていることそのものが何より尊いと思う	0.48	-0.02	0.12	-0.11	0.34	-0.16	0.48	3.32 (1.07)
Rt02 すべての命は互いに支えあって生きていると思う	0.44	0.21	0.07	0.13	-0.09	-0.11	0.38	3.87 (0.88)
It36 人は一瞬一瞬の命を活かすことが大事だと思う	0.44	0.19	-0.03	-0.02	0.19	-0.09	0.41	3.49 (0.98)
Ri62 人のために自分の命をあげようと思えることがある	-0.43	0.37	0.10	0.26	0.02	0.24	0.28	2.62 (0.94)
Rt31 命の流れの中で自分は存在していると思う	0.37	-0.09	0.06	0.34	0.04	0.16	0.47	3.12 (1.01)
It08 死を意識するとき命を実感する	0.35	0.01	-0.07	-0.02	0.15	0.23	0.28	3.54 (1.19)
Rt03 自分の命は宇宙の命とつながっていると思う	0.29	-0.07	0.14	0.25	-0.07	0.01	0.23	2.13 (0.98)
f2 自分の命を人のために役立てたいという使命感								
Ri21 限りある命を誰かのために活かしたい	0.12	0.88	-0.02	-0.03	0.14	-0.01	0.73	3.89 (0.93)
Ri10 自分の命は誰かの役に立つように活かしたい	0.16	0.77	0.04	-0.09	-0.13	-0.07	0.58	4.06 (0.91)
Ri56 与えられた命を人のために活かしたい	-0.00	0.74	0.05	-0.08	0.20	-0.06	0.69	3.96 (0.90)
Ri11 人の命を救うために力を尽くしたい	0.08	0.73	-0.07	-0.01	0.05	-0.01	0.60	4.06 (0.88)
Ri38 人の命を救うことに役立ちたい	0.06	0.70	-0.04	-0.03	0.15	-0.02	0.62	4.13 (0.85)
Ri67 自分の生きる意味は人のために何をしてあげられるかにあると思う	-0.03	0.51	0.10	-0.07	0.24	0.03	0.44	3.31 (0.95)
Ri17 自分の命と引き換えに他者の命を助けることもあると思う	-0.17	0.46	0.18	0.05	-0.08	0.10	0.24	3.09 (0.95)
Ri44 生き物の命に関係する仕事をしたい	0.19	0.43	-0.06	0.06	0.21	0.05	0.35	3.88 (0.95)
It37 与えられた自分の命をどのように活かすかを考えている	0.27	0.39	-0.09	0.03	0.07	0.09	0.38	3.32 (0.99)
It46 命は誰かのために存在するということはない	0.10	-0.35	-0.05	0.01	-0.02	0.29	0.17	2.06 (0.93)
Rt04 一人ひとりの命の重さを感じる	0.31	0.35	-0.05	0.05	-0.08	0.00	0.28	4.01 (0.91)
It48 命は自分のために存在する	0.13	-0.34	-0.01	-0.07	0.23	0.22	0.16	2.61 (1.01)
It66 自分の命は誰かのために存在すると思う	0.02	0.31	0.29	0.07	0.09	-0.05	0.34	3.06 (0.95)
Ri60 自分の子どものためなら、自分の命と引き換えてもいいと思う	-0.01	0.26	0.11	-0.01	0.23	0.00	0.23	3.62 (1.06)
It12 自分の命は自分だけのものであると思う	0.15	-0.26	-0.05	-0.07	0.01	0.19	0.10	2.12 (0.88)
f3 世代を超えた命のつながり感								
Rt16 自分は後の世に命を残すために存在している	0.02	0.05	0.76	-0.12	-0.09	-0.00	0.50	2.25 (0.95)
Rt25 自分の命は次の世代につながっていると思う	0.14	0.06	0.71	-0.00	-0.03	-0.10	0.60	2.92 (1.05)
Rt27 次の世に命を残すことで自分の命の意味は生まれる	-0.04	0.01	0.62	-0.06	0.17	-0.01	0.43	2.24 (0.93)
Rt15 自分の命は後の世の誰かに受け継がれる	0.04	0.03	0.54	0.13	-0.06	0.02	0.39	2.56 (1.15)
Rt26 自分の命は前の世代からつながっているものだと思う	0.09	0.03	0.51	0.13	-0.08	0.07	0.38	3.33 (1.09)
Ri55 自分の命を子どもにも引き継ぎたい	0.04	0.00	0.44	-0.04	0.41	-0.07	0.48	3.33 (1.16)
f4 命の相互のつながり感								
Rt23 人も自然もあらゆる命はつながっていると思う	-0.03	0.06	-0.13	0.85	0.06	0.02	0.70	3.12 (1.04)
Rt22 他の生きとし生けるものすべてと自分の命はつながっていると思う	0.04	0.02	-0.10	0.83	0.08	-0.03	0.71	2.85 (1.01)
Rt28 自分の命はすべての生き物の命につながっている	0.08	-0.08	0.11	0.66	0.02	-0.06	0.53	2.42 (0.91)
Rt34 命あるものは互いにつながりあって存在している	0.23	0.09	0.01	0.45	0.13	-0.15	0.49	3.51 (1.00)
Rt24 大きな命の流れを感じることもある	0.33	-0.04	0.12	0.36	-0.03	0.02	0.39	2.50 (0.94)
Rt42 地球上にあるすべての命のことを想像することがある	0.23	-0.11	0.04	0.28	0.12	0.01	0.23	2.45 (0.98)
Rt29 命は自分が生まれる前も死んだ後も続いていく	0.04	-0.04	0.17	0.25	0.05	0.07	0.17	2.79 (1.21)
f5 自他の命の証を遺したいという願い								
Ri63 亡くなった人の命の意味あるものにしてあげたいと思う	-0.24	0.16	-0.05	0.13	0.63	0.06	0.43	3.43 (1.04)
Ri59 亡くなった人の命の分まで自分は懸命に生きようと思う	-0.02	0.14	-0.03	0.15	0.56	0.03	0.49	3.57 (1.06)
It57 自分の命の証をこの世の中に残していきたい	-0.06	-0.06	0.30	-0.02	0.50	0.09	0.40	3.17 (1.10)
It58 この世で一番大切な命を大事に活かそうと思う	0.32	0.11	-0.03	-0.07	0.48	-0.08	0.50	3.85 (0.97)
It54 命あることが貴重だと思うと、人と人のつながりの大切さを実感する	0.20	0.04	-0.13	0.17	0.47	-0.04	0.42	3.73 (0.96)
Ri64 自分の命の証をこの世に残すことを考える	-0.06	-0.09	0.37	-0.09	0.42	0.16	0.37	2.84 (1.08)
It68 命があることは幸運なことなのだと思う	0.38	0.04	-0.17	0.02	0.40	-0.07	0.40	4.02 (0.95)
It45 自分の命は自分自身で守ろうと思う	0.22	-0.11	-0.08	-0.03	0.30	0.13	0.18	3.66 (0.92)
It47 他の命が傷ついているのを見ると自分が傷つくように感じる	-0.06	0.22	-0.07	0.09	0.25	0.12	0.19	3.57 (0.89)

(次頁へつづく)

(つづき)

f6 限りある命の実感								
It07 自分の命にはいつか終わりがくると意識している	0.21	0.11	0.04	-0.07	0.02	0.53	0.37	3.89 (0.97)
Ii65 なぜ自分がこの世に生まれてきたのかその意味を考える	-0.07	0.06	0.10	0.15	0.02	0.48	0.31	3.17 (1.11)
It43 人の命には限りがあると感じる	0.15	0.16	-0.08	-0.08	0.10	0.45	0.35	4.13 (0.82)
It61 自分の命はいつまであるのかと思う	-0.01	-0.07	-0.04	-0.09	0.34	0.45	0.32	3.56 (1.00)
Ii18 命ははかないものである	0.03	0.17	0.00	-0.12	0.21	0.43	0.34	3.86 (0.99)
It49 すべての命は自分の意思とは関係なく存在する	0.01	-0.21	-0.00	0.02	-0.03	0.36	0.15	2.95 (1.08)
It53 命があるかないかは紙一重の差だと感じる	0.01	-0.05	-0.00	0.08	0.05	0.28	0.10	3.08 (1.26)
因子間相関								
f1 命としてあることの実感								
f2 自分の命を人のために役立てたいという使命感	0.46							
f3 世代を超えた命のつながり感	0.41	0.32						
f4 命の相互のつながり感	0.49	0.41	0.44					
f5 自他の命の証を遺したいという願い	0.53	0.50	0.38	0.36				
f6 限りある命の実感	0.31	0.15	0.18	0.11	0.21			

注 1) 項目番号に付したアルファベットは、It：個別性・超越性、Rt：関係性・超越性、Ii：個別性・内在性、Ri：関係性・内在性として作成した項目であることを示す。

2) 0.40以上の因子負荷量を枠で囲んだ。

表2 命の意味づけ尺度の記述統計量と再検査信頼性および安定性

	全体 (n=434)		再検査 (n=109)		安定性
		α	再検査前	再検査時	
1－命としてあることの実感	3.46(0.79)	0.76	3.24(0.77)	3.31(0.86)	0.56***
2－自分の命を人のために役立てたいという使命感	3.99(0.77)	0.87	3.86(0.73)	3.68(0.80)	0.35***
3－世代を超えた命のつながり感	2.49(0.79)	0.77	2.36(0.71)	2.54(0.77)	0.47***
4－命の相互のつながり感	2.98(0.82)	0.84	2.82(0.74)	2.75(0.83)	0.44***
5－自他の命の証を遺したいという願い	3.51(0.77)	0.72	3.31(0.73)	3.35(0.72)	0.50***
6－限りある命の実感	3.69(0.67)	0.63	3.56(0.59)	3.55(0.66)	0.42***

注 1) n (人数), α 係数, 安定性以外の数値は, 平均値 (SD) である。

2) 全体の平均値 (SD) に, 再検査時の回答は含まれていない。

3) *** $p < 0.001$

第5因子は「自他の命の証を遺したいという願い」と解釈された。第6因子に高い負荷量を示した多くの項目は「個別性・超越性」として作成されたものであり、命には終わりがあはかないものであるという実感や、その実感によって生じる疑問を表していると考えられた。そこで、第6因子は「限りある命の実感」と解釈された。

以降の分析では、尺度使用における簡便性を考慮し、各因子に負荷量が高い上位4項目を用いて下位尺度を構成する。

(2) 信頼性の検討

各下位尺度について α 係数を算出した。 α 係数と共に、各下位尺度の平均値とSD(標準偏差)を表2に示す。0.63～0.87の α 係数が得られ、各下位尺度について一定水準の内的整合性が確かめられた。

さらに、再検査法による命の意味づけ尺度の安定性を検討した。2006年の4月と7月に調査を実施した同一の回答者109名について、各下位尺度間の相関係数を求めた。その結果、0.35～0.56の相関係数が得られ、各下位尺度はある程度の安定性を示していた(表2)。

(3) 妥当性の検討

2007年から2008年に調査を実施した308名のうち欠損値のみられなかった回答者について、命の意味づけ尺度6下位尺度と死生観尺度7下位尺度との相関係数を求めた(表3)。『人生における目的意識』は、「6－限りある命の実感」以外の5つの下位尺度に、0.18～0.35の有意な相関係数が得られた。また、「6－限りある命の実感」と『死への関心』には0.36の相関係数が得られた。

命の意味づけ尺度の特徴を確認するために、

表3 命の意味づけ尺度と死生観尺度との相関係数 ($n=278, 279$)

	死生観尺度						
	1-死後の世界観	2-死への恐怖・不安	3-解放としての死	4-死からの回避	5-人生における目的意識	6-死への関心	7-寿命観
命の意味づけ尺度							
1-命としてあることの実感	0.18**	0.16**	0.02	0.07	0.28***	0.18**	0.11
2-自分の命を人のために役立てたいという使命感	0.17**	0.08	-0.05	0.14*	0.18**	0.04	0.04
3-世代を超えた命のつながり感	0.27***	0.07	-0.02	0.03	0.26***	0.00	0.11
4-命の相互のつながり感	0.18**	0.03	-0.09	0.03	0.35***	0.08	0.03
5-自他の命の証を遺したいという願い	0.23***	0.23***	-0.13*	0.22**	0.30***	0.04	0.04
6-限りある命の実感	0.01	0.14*	0.09	-0.07	0.03	0.36***	0.02

注 *** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$

表4 命の意味づけ尺度の男女による得点差

	男性 ($n=163$)	女性 ($n=271$)	t 値	(df)	検定
1-命としてあることの実感	3.34(0.79)	3.53(0.78)	2.49	(432)	*
2-自分の命を人のために役立てたいという使命感	3.79(0.81)	4.11(0.72)	4.30	(432)	***
3-世代を超えた命のつながり感	2.37(0.83)	2.56(0.75)	2.41	(432)	*
4-命の相互のつながり感	2.78(0.83)	3.09(0.78)	3.88	(432)	***
5-自他の命の証を遺したいという願い	3.32(0.73)	3.62(0.77)	3.96	(432)	***
6-限りある命の実感	3.66(0.74)	3.71(0.63)	0.66	(297.72)	

注 1) n (人数), t 値, df (自由度) 以外の数値は, 平均値 (SD) である。2) *** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$

男女による得点差を分析した。性別(男性, 女性)を独立変数に, 命の意味づけ尺度6下位尺度得点を従属変数にした t 検定を行った。その結果, 「6-限りある命の実感」以外の5つの下位尺度で, 女性の方が男性よりも得点が大きかった(表4)。

続いて, 身近な人との死別体験(あり, なし)を独立変数に, 命の意味づけ尺度6下位尺度得点を従属変数にした t 検定を行った。その結果, 「1-命としてあることの実感」「4-命の相互のつながり感」「5-自他の命の証を遺したいという願い」「6-限りある命の実感」は, 身近な人との

死別体験がある回答者の方が, 体験がない回答者よりも得点が大きかった(表5)。

表5 命の意味づけ尺度の身近な人との死別体験による得点差

	あり ($n=294$)	なし ($n=140$)	t 値	(df)	検定
1-命としてあることの実感	3.53(0.80)	3.32(0.74)	2.64	(432)	**
2-自分の命を人のために役立てたいという使命感	4.02(0.74)	3.93(0.83)	1.23	(432)	
3-世代を超えた命のつながり感	2.51(0.77)	2.46(0.82)	0.55	(432)	
4-命の相互のつながり感	3.03(0.82)	2.85(0.80)	2.22	(432)	*
5-自他の命の証を遺したいという願い	3.58(0.77)	3.36(0.74)	2.73	(432)	**
6-限りある命の実感	3.74(0.64)	3.57(0.72)	2.55	(432)	*

注 1) n (人数), t 値, df (自由度) 以外の数値は, 平均値 (SD) である。2) *** $p < 0.01$, * $p < 0.05$

表6 命の意味づけ尺度の生死に関わる病気やけがの経験による得点差

	あり ($n=38$)	なし ($n=396$)	t 値	(df)
1-命としてあることの実感	3.26(0.98)	3.48(0.77)	1.37	(41.43)
2-自分の命を人のために役立てたいという使命感	3.88(0.94)	4.00(0.75)	0.82	(41.63)
3-世代を超えた命のつながり感	2.27(1.04)	2.51(0.75)	1.40	(40.83)
4-命の相互のつながり感	2.80(0.73)	2.99(0.82)	1.37	(432)
5-自他の命の証を遺したいという願い	3.44(0.81)	3.51(0.76)	0.56	(432)
6-限りある命の実感	3.89(0.68)	3.67(0.67)	1.92	(432)

注 n (人数), t 値, df (自由度) 以外の数値は, 平均値 (SD) である。

さらに, 生死に関わる病気やけがの経験(あり, なし)を独立変数に, 命の意味づけ尺度6

下位尺度得点を従属変数にした t 検定を行った。その結果、有意な得点差はみられなかった（表6）。

Ⅳ 考 察

（1） 命の意味づけ尺度の構成

本研究では、尺度使用における簡便性を考慮し、抽出された各6因子に高い負荷量を示した上位4項目からなる計24項目の命の意味づけ尺度を作成した。

命の有限性という側面が「6－限りある命の実感」として抽出され、「3－世代を超えた命のつながり感」という時間的な垂直方向のつながりと、「4－命の相互のつながり感」という命あるもの同士の水平方向のつながりが得られた。さらに、「5－自他の命の証を遺したいという願い」という時間的な垂直方向に命を生かしていく内容と共に、「2－自分の命を人のために役立てたいという使命感」という他者との水平方向に命を生かしていく内容も見いだされた。このように、研究にあたり想定された2次元4領域と比較して、より包括的に命の意味づけをとらえることのできる尺度が構成されたと考えられる。

また、下位尺度の「3－世代を超えた命のつながり感」と「4－命の相互のつながり感」の得点は、理論的中間値である3.00より小さかった。青年期では命のつながりについてはあまり実感しておらず、世代を超えたつながりや命あるもの同士の相互のつながりについては、成人期以降に実感されていくものと推察される。

（2） 命の意味づけ尺度の信頼性と妥当性

構成された6下位尺度の信頼性については、 α 係数による内的整合性と再検査法による安定性が確かめられた。ただし、安定性係数は、0.35～0.56と中程度の値であり、命の意味づけが変化していく面もあることが考えられる。今回の研究では、再検査までの期間がおよそ3カ月であり、調査回答者は所属する医療系大学の授業を通して命や生命について考える機会が

あったことも影響した可能性を指摘できる。

命の意味づけ尺度の妥当性は、『死生観尺度』における『人生における目的意識』との予想した関連が「6－限りある命の実感」以外の5つの下位尺度で得られ、一定水準示された。「6－限りある命の実感」は、『死への関心』と0.30以上の相関がみられたように、命の意味づけの中でも他の因子とは異なる側面を示しているといえる。それ以外では、有意な相関がみられないか、あるいは有意であったとしても相関係数の値は小さかった。このことから、作成した命の意味づけ尺度は、死生観における死の側面とは異なる内容を測定しているという尺度の弁別性も確かめられたといえる。

石坂⁷⁾は、男性の方が死を避けあまり考えない傾向を、女性の方が死に対して接近的姿勢をとるとして、性によって死への距離のとり方が異なることを指摘している。「6－限りある命の実感」以外の5つの下位尺度についても、死の意味づけと同様に、女性の方が男性よりも命を実感していることが示された。特に命の意味づけでは、女性の「産む性」としての自覚も関係している可能性が考えられる。

死別体験のある人の方が死への恐れが強く、否定的感情も強いことが報告されている⁷⁾。身近な人との死別体験は、死への恐れと否定的感情だけではなく、「1－命としてあることの実感」「4－命の相互のつながり感」「5－自他の命の証を遺したいという願い」「6－限りある命の実感」といった命の意味づけを促すことが本研究では示唆された。

また、生死に関わる病気やけがの経験と命の意味づけの予想した関連は示されなかったが、経験がある回答者38名に対して経験がない回答者は396名と人数差が大きかったことが結果に影響した可能性も考えられる。

（3） 本研究の課題と今後の展望

開発された命の意味づけ尺度について、今回調査を実施した医療系大学生以外への活用や、尺度の妥当性を下位尺度間の弁別性も含めて検討を重ねていく必要がある。さらに、命の意味

づけには宗教的背景などによる文化差のみられることが予想されるため、今回開発した命の意味づけ尺度が文化を超えて有効であるかについても確かめることが重要である。

V 結 語

命の意味づけ尺度は、「命としてあることの実感」「自分の命を人のために役立てたいという使命感」「世代を超えた命のつながり感」「命の相互のつながり感」「自他の命の証を遺したいという願い」「限りある命の実感」という6下位尺度から構成され、一定水準の信頼性と妥当性が確かめられた。開発した命の意味づけ尺度を命の教育での授業評価、あるいは看護や医療における臨床場面で実際に活用していくと同時に、その実践を通して命の意味づけ尺度をより有効なものに発展させていくことが必要である。

謝辞

本研究は、文部科学省研究振興局（独）日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究C課題番号20530599の助成を受けた。研究にあたり、茨城県立医療大学（当時）落合幸子先生、梁明玉

氏に多大なご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

文 献

- 1) Templer DI. The construction and validation of a death anxiety scale. *Journal of General Psychology* 1970 ; 82(2) : 165-77.
- 2) Wong PTP, Reker GT, Gesser G. Death attitude profile-revised: A multidimensional measure of attitudes toward death. Neimer ed. *Death anxiety handbook: Research, instrumentation, and application*. Washington DC: Taylor & Francis, 1994 ; 121-48.
- 3) 平井啓, 坂口幸弘, 安部幸志, 他. 死生観に関する研究: 死生観尺度の構成と信頼性・妥当性の検証. *死の臨床* 2000 ; 23(1) : 71-6.
- 4) 森岡正博. 生命観を問いなおす: エコロジーから脳死まで. 東京: 筑摩書房, 1994.
- 5) 森岡正博, 居永正宏, 吉本陵. 生命の哲学の構築に向けて (1) 基本概念, ベルクソン, ヨーナス. *人間科学: 大阪府立大学紀要* 2007 ; 3 : 3-68.
- 6) 上田紀行. 覚醒のネットワーク: こころを深層から癒す. 東京: 講談社, 1997.
- 7) 石坂昌子. 死の意味づけ尺度作成の試み. *心理臨床学研究* 2009 ; 26(6) : 734-40.